

**戦争体験
募集によせて**

休斎 妙子
堺区南半町西

昭和19年2月に叔父が北満州で商売をしており、神戸に用事があり帰ってきておりました。私も満州についていました。

昭和20年8月10日ソ連と戦争状態になりました。私は軍属でしたので、部隊から1m程の白い布でリックサックを縫つて最低の貴重品を入れるようにとの事なので、下着と家族の寝具を持ちました。軍隊とともに行動するので、軍服・帽子・ゲートルを巻いて高梁畠の中を歩きました。一機のソ連機が右から飛んできました。操縦士の目も見え、もうだめだと思つていたら飛行機は方向を変えて飛び去りました。夢のような一瞬でした。もしあの時撃たれていたら外地の土になっていたでしょう。

8月15日玉音放送で終戦を知りました。日本に帰れるという事が第一に思いました。部隊から何かあつたらこれを飲むようにと小さな青酸カリの入った瓶とクレオソートの瓶が配られました。

寄稿 私の戦争体験

「とも」9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載していきます。



追伸 青酸カリの瓶は堺にきてから捨てましたが、クレオソートの入った瓶は今でも持っています。

関東軍の文字もむなしい思い出でいっぱいです。

毎日何人かの方が亡くなり、墓標が次々に多くなっています。

土に眠る兵隊さんたちはどうなつてているのでしょうか。思い出は限りありませんが、追記は後日書きます。

た。

た。